

◎高松市生涯学習事業の推進状況について

[1] 概要

高松市生涯学習事業の令和元年度の推進状況について、事業担当課で自己評価を行いました。

基本目標	施策の基本方向	具体的な施策の展開	事業数	評価別 事業数					平均評価点	
				A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	評価 不可		
Ⅳ 青少年の健全 育成	1 子どもの体験 活動の充実	(1) 放課後や週末の体験 ・交流活動の場づくり	30	14	5	10	0	1	4.1	4.7
	2 青少年の健全 育成の推進	(1) 子どもが安心できる 場所づくり	1	1	0	0	0	0	5.0	
		(2) 青少年の非行防止 活動の推進	-	-	-	-	-	-	-	
		(3) 情報モラル教育と ネット・ゲーム依存 対策の推進	1	1	0	0	0	0	5.0	
Ⅴ 家庭・地域の 教育力の向上	1 学校・家庭・ 地域の連携強化	(1) 家庭・地域と一体と なった学校の活性化	7	6	1	0	0	0	4.9	4.0
	2 家庭及び地域の 教育力向上の推進	(1) 家庭の教育力の向上	21	8	8	4	0	1	4.2	
		(2) 地域の教育力の向上	3	0	0	3	0	0	3.0	
Ⅵ 生涯学習の推進	1 学習機会の充実	(1) 多様なニーズに応じ た学習機会の充実	72	33	21	12	1	5	4.3	4.3
		(2) 学習成果をいかせる 環境づくり	13	6	4	3	0	0	4.2	
	2 学習施設・機能 の充実	(1) 学習施設・機能の 充実	15	9	4	2	0	0	4.5	
	施策体系にはない が、指標の設定があ る事業(*1)	-	3	0	1	0	0	2	4.0	
総合計			166	78	44	34	1	9	4.3	

(*1) No.164 生涯学習をしている人の割合（市民意識アンケート調査）

No.165 ボランティア活動に参加した人の割合（市民意識アンケート調査）

No.166 図書館図書市民一人あたり貸出冊数（年間）

★評価：A（前年度の実績を上回った。前年度実績の100%以上）

B（概ね前年度の実績並である。前年度実績の80%以上100%未満）

C（前年度の実績を下回った。前年度実績の79%以下）

D（未着手のまま。実施不可能、休止）

★評価点：A→5点、B→4点、C→3点、D→2点で換算

[2] 分析結果

166事業のうち、4点以上が122事業となり、約8割の事業で一定の成果が上がっています。

これは、No.13「高松・嶺北子ども交歓会」で、実施場所の変更や新しい体験活動を取り入れる等、行事内容を新しくしたことや、No.48「フードスタート運動」で、対象世代に応じた資料や媒体等を作成し、食育の啓発を推進したことにより満足度や関心を高められたことによるものです。

また、No.76「地域における人権啓発推進事業」で、人権啓発推進員の工夫により、様々な形態での啓発事業を実施、No.105「市民登山学校」で、生徒募集において各種広報媒体を活用し、広く市民に周知などを行った結果、参加者を増加させることができました。

各課で事業内容に工夫を凝らしたほか、広報活動として市ホームページや広報高松の活用はもとより、SNSを活用するなど、多種多様な情報発信を行うことで前年度実績以上の成果につなげることができました。

一方、35事業で3点以下の評価となり、前年度実績を下回る結果になりました。うち、13事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、講座等の中止があったことによるものです。

No.14「こども農園事業」では、農地の減少や地域の担い手不足により、農園数が減少し、令和元年度をもって廃止となりました。

No.8「夏休みこども歴史講座」のように参加者数は前年度を下回ったものの、歴史資料を活用した学習内容が好評であった講座もあります。

評価の低い事業についても、引き続き、事業内容の見直し・改善を行い、積極的な広報活動を図っていく必要があります。

[3] 今後の課題

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度では更なる事業の中止、縮小が想定されますが、すでに新たな方法で実施している事業もあります。

No.9「子どものアトリエ事業」では、子ども向けの作品制作番組などを紹介する動画配信を令和2年5月から開始しています。

また、No.24「こども未来館学習」では、学校からのバス移動での「3密」を回避するため、こども未来館の職員が各学校に出向き、各学校において体験できる「出張こども未来館学習」を実施しています。

「新しい生活様式」に沿った講座・事業の実施方法を検討し、市民の学びを継続していくことが大切であると思われます。